

地域密着型サービス評価の自己評価票

グループホームあかぎ

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後もさらに地域の方に、施設のことを知っていただき、理解を深めていただけるように努めていきたいと思っております。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後もさらに、地域との交流が図れるように努めていきたいと思っております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や地元の方からの介護サービスに関する相談など、積極的に受けるようにしています。認知症に関する知識や介護方法、地域の施設のことなどの相談も随時受け、情報提供を行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、全体会議で全職員に周知を図り、今後の介護に当たっての改善を進めていけるようにしています。	○	今回の自己評価に関しては、気づきのきっかけになるよう、ユニットリーダーを中心に職員に協力してもらいながら出来る範囲で記入をしています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果やアンケートの結果などを報告し、意見を頂いています。また、出された意見に対し業務に反映できるようにし、改善した点などの報告を行っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内の行事に招待したり、役所を訪問した際に情報交換を行い、地域の情報を頂いています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会を設けています。また、実際に利用されている方もいるため、どのような支援を受けているかを学ぶことが出来ています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加する機会を設けています。職員は研修会を通して、虐待防止について学び、実践できるよう努めています。また、受傷の際には、インシデント・アクシデントレポートの提出を行っており、虐待による受傷ではないことの確認が出来るような体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、文書をもって口頭で説明を行い、疑問点について確認を行いながら進めるようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際には、意見をうかがうようにしています。頂いた意見は職員で話し合い改善できるように努めています。年1回無記名でサービスに対するアンケートを行い意見を頂き、対応や改善策等の報告を行っています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あかぎだより」にて、生活の様子や、施設側からのお知らせをしています。また、面会や電話連絡の際に状態の報告を随時行っています。	○ いろいろな都合で面会に来ることが難しい方もおり、身体の状況について知りたいというご希望がありましたので「あかぎだより」に生活の様子その他、身体状況の欄を設け、ご家族にお知らせしています。今後は、ご家族のご意見に対する対応について報告していけるようにしたいと思えます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際には、ご意見をうかがうようにしています。頂いた意見は職員に申し送り、今後のホームの対応に反映できるようにしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各担当会議やケアカンファレンス、日常業務の中で、職員の意見を聞く場を設けています。また、意見交換シートを活用してカンファレンスを行い、業務に反映できるようにしています。	○ モニタリングは月1回に改善、今後も同様に行っていきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝夕の申し送りの際に、情報交換を行い、その日の状況に合わせたケアの実践が出来るように努めています。急な通院や外出に際しても勤務調整を行うなど、柔軟な対応が図れるよう努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を必要最小限に抑えるため、職員の訴えを傾聴し、職場環境の改善に取り組んでいます。職員の他ユニット間の異動については、日常的に他ユニットとの交流を行い、利用者へのダメージが少なくなるように配慮しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの段階に応じた研修の機会を設け、知識・技術の向上が図れるようにしています。業務の中では、職員の能力に応じて、ユニットリーダーや経験の長い職員が、一緒に業務を行う中で技術を身につけることが出来るような体制をとっています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム管理者と連絡を取り合ったり、群馬県地域密着サービス連絡協議会を通じて、他施設への研修や他施設職員を招いたりすることで、交流する機会を作り、サービス向上につなげる取り組みをしています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気兼ねなく過ごせる休憩室や喫煙室を設けています。管理者は職員の訴えに対し、傾聴するように心がけ、その訴えを運営者に繋げ、働きやすい職場を提供できるよう心がけています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績に応じて評価を行うシステムが構築されています。そのことが職員個々の向上心に繋がっています。また、資格取得に向けての支援や、資格取得後の待遇改善など行い、向上心を持って働けるように努めています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	了解を頂いた上で、入居にいたるまでに、利用中の施設や在宅を訪問し、本人自身から思いを伝えてもらえる機会を設けるようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の都合の許す範囲内で、電話や当ホームに来所いただき相談の機会を設けるようにしています。その中で家族の思いをよく聴くことが出来るよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、他サービスも含め説明を行い、サービスを選択出来るように努めています。また、当ホームで出来ることと出来ないことの説明を行い、必要としているサービスであるか見極めができるように援助するよう努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には必ず当ホームに来所して見学していただき、雰囲気馴染めるようにしています。入居後は観察を行い、入居者様やご家族と相談しながら、当ホームの生活に馴染んでいただけるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーションの時間には、職員も一緒になって楽しんだり笑ったりしています。日常生活の中では、入居者様に家事的なお手伝いをしていただき、お互いに支えあって生活する関係が築けています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が援助することが入居者様にとって良いと思えることはご協力をお願いしています。同じ思いで援助が出来るよう、ご家族の思いを受け止めることが出来るよう努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と入居者様のこれまで過ごしてきた生活を尊重し、より良い関係が継続できるよう、状態の報告や情報を提供しています。必要だと思われる場合には、面会や外出を勧めるなどの援助を行っています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者と気兼ねなく過ごせるように、環境を整えた上でその場を離れるようにしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握し、なじみの人や気の合う人と席を隣り合わせにしたり、必要に応じて職員が仲介を行うなど、良い関係が築けるように援助しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居される際には、お困りの事がありましたらいつでもご相談いただきたい旨伝えています。また、退居後の移動先の様子などの確認を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際には、それまでの生活ぶりや意向を確認しています。また、日常生活の中で、会話などから希望や意向を汲み取るよう努め、困難な場合はご家族と相談し、本人本位に考えられるように努めています。	○	アセスメントの様式の検討をし、入居者様の思いや意向をより詳しく知ることが出来るようにしていきたいと思います。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご本人やご家族から、これまでの生活の様子をうかがうようにしています。その情報を職員は入居前に確認し、入居後は日常生活や会話の中から、今までの生活を把握できるように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの観察を行うことによって、心身の状態や能力を把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族から意向の確認を行っています。職員の「意見交換シート」の活用やケアカンファレンス、医療関係者との連携により、話し合いを行い、介護計画に取り組んでいます。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っています。毎月のケアカンファレンスやご本人の状態や意向・ご家族の意向、医療関係者等との連携により、必要に応じて見直しや変更を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「経過記録」や「あかぎ日誌」「情報交換シート」に日々の記録や観察点の記録を行い、情報の共有を図り、介護計画の見直しに活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方々による慰問の受入れや、近隣中学校の職場体験の受入れを行っています。運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員の方や地域の方から情報を頂くなど、協力しながら入居者様の支援に活かしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用を希望される方がいないため、具体的な動きは生じていません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、必要性が生じていない為、具体的な動きはありませんが、地域包括支援センターの職員の方には、運営推進会議に出席していただいています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診が継続できるように、必要に応じて受診先への送迎と同行を行います。かかりつけ医や往診医や訪問看護師との連携により、適切な医療が受けられるような援助を行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のチェックと記録を行い、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう援助しています。また、カンファレンスを行い、誘導時間の変更や下着の変更を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決まっていますが、身体状況と精神状態により、声かけの仕方を工夫したり、入浴の実施や入浴日の変更を行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況の把握により、休息の時間を設けてゆっくりと休めるように援助しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々を楽しく過ごしていただけるよう、レクリエーションの提供を行ったり、家事援助をして頂いています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力を理解し、お金を所持している方については、買い物ができる機会をつくるなどの支援を行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	明確な外出の希望をされる方はごくわずかですが、希望された場合には散歩等の援助を行っています。雨の日には他のユニットなどに出かけ、気分転換が図れるように援助しています。	○	さらに希望に添った外出が出来るよう、努めていきたいと思っています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食会や外出行事を定期的に行い、外出の機会を設けています。その際、入居者様の希望を聞き、取り入れるようにしています。ご家族へはお便りで参加の呼びかけを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	このユニットで手紙や電話を希望される方はおりませんが、電話で伝言を依頼される方については、相手方に伝え、相手方からの言葉を伝えるなど、仲介役をするなどの援助を行っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が見えたときには、お茶と椅子を用意し、ゆっくりくつろげる雰囲気作りを心掛けています。また、他の人の目届かない場所に談話コーナーが設けてあり、気がねなく過ごせるスペースを確保しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念に掲げられているとおり、身体拘束は一切行っていません。職員は研修にて身体拘束について学び、実践されています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけていません。玄関に関しては安全性を考慮して鍵をかけています。そのことによる弊害は理解しており、散歩やドライブに出かけるなど閉塞性を感じることがないような支援を行っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪問する際には、必ずチャイムを押し、プライバシーに配慮した上で、安否確認を行っています。定時の巡視時に安否確認を行うとともに、危険性の高い入居者様に対しては、定時以外の巡視時間を設け、所在や安否の確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	このユニットにおいて注意を要する物品を持ち込んでいる方はいませんが、そのような対応が順応できる体制があります。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の事項に関する研修を受ける機会を設けています。一人ひとりに合わせ、定時以外の巡視による安否確認や食事形態の変更、誤薬の予防対策等を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者様の急変や事故への発生に備え、救急救命の研修を受け応急手当や初期対応について学んでいます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの下、防災訓練を実施し、避難方法を学んでいます。近隣の商店や住民の方には、日常会話の中で、そのような場合の対応について折に触れて話すようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態や状況に合わせて考えられるリスクについては面会や電話連絡の際に随時説明し、ご理解をいただけるよう話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定と、日々の観察により状態の変化を見逃さないように努めています。変化が見られた場合には、報告と観察を行い、訪問看護師の助言をいただいたり、受診へとつなげます。また変化があった時には申し送りで情報の共有を図り、速やかな対応が出来るように努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主な内服薬については個人ファイルの中に内服薬の情報を入れてあり理解しています。薬の変更があった場合には経過記録に記入し、共有を図り状態の観察を行います。内服に際しては、チェック体制を整えており安全に援助できるようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便サイクルの観察を行っています。水分量や食事摂取量、食事内容が排便に及ぼす影響を理解しており、必要分摂取できるよう援助しています。必用に応じて腹部マッサージや、トイレで座位をとり排便が出来るような援助に努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔衛生の援助を行っています。自分で行える方には出来る部分を行っていただき、不足の部分の援助を行っています。ブラシの使用が難しい方には、綿棒を使用し、口腔内の清潔を保てる様に援助しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じて食事形態を変えて提供しています。飲み込みの悪い方には、キザミ食やとろみ・ゼリーにして提供しています。水分・食事量のチェックと記録を行い、必要量が摂取できるような援助を行っています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修を受けています。マニュアルが作成されており、いつでも閲覧できる場所に設置してあります。出勤時の手洗い・うがい・消毒は毎日実行、インフルエンザの予防接種も実施しています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存方法は決められたシステムによって管理されています。賞味期限も定期的に確認し、必要に応じ処分しています。食材を扱う際には、調理器具と手指の消毒を行い、生物は火を通すなど、安全な食材の使用と管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は植樹し、玄関には植木や季節の花を飾るなど、ハードな建物のイメージを緩和できるよう努めています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは窓が広くとっており、明るく開放的で季節の移り変わりを感じとることが出来ます。また、季節に合った飾り付けを行い、BGMを流し、共有スペースが居心地良い場所となるように工夫しています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員や他の方から目の届きにくい場所に、談話コーナーが設けられており、利用者同士で過ごしていただいたりできるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前から使用していたタンスや家具、電化製品を置いたり、好みの飾り付けをして、居心地良い空間を作れるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間やタイミングを決めて換気を行っています。室温は外気温との差を最小限に抑え、入居者の好みや室温の状況により、エアコンをこまめに作動させるようにしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣室・浴室には手すりを備え付け、一人ひとりの機能を活かして自立した生活を送ることが出来るように工夫されています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせ、自分の居室であることが判るような目印を付けたり、写真をドアに貼ったりしてしています。夜間でもトイレがわかるよう、トイレ前の電気をつけておくなど、判断し易い環境の設定をおこなっています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外には農園があり、季節の花を植えたり、野菜を作っ一緒に収穫し食事に提供するなど、楽しく活動できるようにしています。ベランダではお茶会を行ったりできるスペースを確保し、活用しています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の方との交流を深めることにより、地域に根差したホームを目指しています。
 その人らしい生活をしていただき、楽しく日常を送っていただけることを目標に援助を行っています。
 入居者様が何を求めているのかを第一に考え、利用者の声に耳を傾け、意志を尊重しながら援助を行っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあかぎ
(ユニット名)	2丁目
所在地 (県・市町村名)	群馬県渋川市赤城町勝保沢732-1
記入者名 (管理者)	上条 みつ江
記入日	平成 21年 9月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として、地域の中で、入居者様が希望に添ってその人らしく尊厳を持って生活を送ることが出来るよう支援していくことを理念として掲げています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目の届きやすい所に理念を掲示し、その理念を職員が共有し、実践につなげています。その人らしく尊厳を持って生活できるよう、入居者様の立場に立って考えられるよう、折に触れて話しています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約の際には、必ず口頭で説明し、ご理解をいただけるように努めています。また、運営推進会議や行事など、地域の方や家族が集う場所で、折を見て話すようにしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店には入居者と一緒にお買い物に出かけ話をしたりしています。外食会では近隣の飲食店などを利用するなど、地域の人との交流を図れるよう努めています。また、夏祭りの回覧物を配布するなど、施設に気軽にきていただけるよう呼びかけを行っています。	○ 今後もさらに地域の方に、施設のことを知っていただき、理解を深めていただけるように努めていきたいと思っています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会で行っている新聞の回収などに協力しています。また、地域で行う祭りや行事などの日程の情報を集め、参加できるように努めています。地域の方からの声掛けにより、芋ほりなどの行事に参加もしています。	○ 今後もさらに、地域との交流を図れるように努めていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や地元の方からの介護サービスに関する相談など、積極的に受けるようにしています。認知症に関する知識や介護方法、地域の施設のことなどの相談も随時受け、情報提供を行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、全体会議で全職員に周知を図り、今後の介護に当たっての改善を進めていけるようにしています。	○	今回の自己評価に関しては、気づきのきっかけになるよう、ユニットリーダーを中心に職員に協力してもらいながら出来る範囲で記入をしています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果やアンケートの結果などを報告し、意見を頂いています。また、出された意見に対し業務に反映できるようにし、改善した点などの報告を行っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内の行事に招待したり、役所を訪問した際に情報交換を行い、地域の情報を頂いています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会を設けています。また、実際に利用について相談されたことがあり、地域包括支援センターや社会福祉協議会に利用方法などについて問い合わせをおこなったことがあります。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加する機会を設けています。職員は研修会を通して、虐待防止について学び、実践できるよう努めています。また、受傷の際には、インシデント・アクシデントレポートの提出を行っており、虐待による受傷ではないことの確認が出来るような体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、文書をもって口頭で説明を行い、疑問点について確認を行いながら進めるようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際には、意見をうかがうようにしています。頂いた意見は職員で話し合い改善できるように努めています。年1回無記名でサービスに対するアンケートを行い意見を頂き、対応や改善策等の報告を行っています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あかぎだより」にて、生活の様子や、施設側からのお知らせをしています。また、面会や電話連絡の際に状態の報告を随時行っています。	○ いろいろな都合で面会に来ることが難しい方もおり、身体の状況について知りたいというご希望がありましたので「あかぎだより」に生活の様子その他、身体状況の欄を設け、ご家族にお知らせしています。今後は、ご家族のご意見に対する対応について報告していけるようにしたいと思えます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際には、ご意見をうかがうようにしています。頂いた意見は職員に申し送り、今後のホームの対応に反映できるようにしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各担当会議やケアカンファレンス、日常業務の中で、職員の意見を聞く場を設けています。また、意見交換シートを活用してカンファレンスを行い、業務に反映できるようにしています。	○ モニタリングは月1回に改善、今後も同様に行っていきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝夕の申し送りの際に、情報交換を行い、その日の状況に合わせたケアの実践が出来るように努めています。急な通院や外出に際しても勤務調整を行うなど、柔軟な対応が図れるよう努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を必要最小限に抑えるため、職員の訴えを傾聴し、職場環境の改善に取り組んでいます。職員の他ユニット間の異動については、日常的に他ユニットとの交流を行い、利用者へのダメージが少なくなるように配慮しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人ひとりの段階に応じた研修の機会を設け、知識・技術の向上が図れるようにしています。業務の中では、職員の能力に応じて、ユニットリーダーや経験の長い職員が、一緒に業務を行う中で技術を身につけることが出来るような体制をとっています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム管理者と連絡を取り合ったり、群馬県地域密着サービス連絡協議会を通じて、他施設への研修や他施設職員を招いたりすることで、交流する機会を作り、サービス向上につなげる取り組みをしています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が気兼ねなく過ごせる休憩室や喫煙室を設けています。管理者は職員の訴えに対し、傾聴するように心がけ、その訴えを運営者に繋げ、働きやすい職場を提供できるよう心がけています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の努力や実績に応じて評価を行うシステムが構築されています。そのことが職員個々の向上心に繋がっています。また、資格取得に向けての支援や、資格取得後の待遇改善など行い、向上心を持って働けるように努めています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>了解を頂いた上で、入居にいたるまでに、利用中の施設や在宅を訪問し、本人自身から思いを伝えてもらえる機会を設けるようにしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の都合の許す範囲内で、電話や当ホームに来所いただき相談の機会を設けるようにしています。その中で家族の思いをよく聴くことが出来るよう努めています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、他サービスも含め説明を行い、サービスを選択出来るように努めています。また、当ホームで出来ることと出来ないことの説明を行い、必要としているサービスであるか見極めができるように援助するよう努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には必ず当ホームに来所して見学していただき、雰囲気馴染めるようにしています。入居後は観察を行い、入居者様やご家族と相談しながら、当ホームの生活に馴染んでいただけるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の能力に応じ、家事援助(モップがけ・洗濯干し・おしぼり巻き・食器洗い)などを職員と一緒にいたり、レクリエーションの時間など会話をしながら季節の飾りつけなど楽しく行っています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と職員で、入居者様にとって良いと思えることを一緒に考え、入居者様を支えています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と入居者様のこれまで過ごしてきた生活を尊重し、より良い関係が継続できるよう、状態の報告や情報を提供しています。必要だと思われる場合には、面会や外出を勧めるなどの援助を行っています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪れた方と楽しく話が出来る場所を提供しています。また、手紙などを書かれる場合にはお手伝いをし、親しい人との関係が維持できるように援助しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人同士や会話の出来る人同士など、席の配置を考え、入居者様が楽しく過ごせるように援助しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居される際には、お困りの事がありましたらいつでもご相談いただきたい旨伝えています。また、退居後の移動先の様子などの確認を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際には、それまでの生活ぶりや意向を確認しています。また、日常生活の中で、会話などから希望や意向を汲み取るよう努め、困難な場合はご家族と相談し、本人本位に考えられるように努めています。	○	アセスメントの様式の検討をし、入居者様の思いや意向をより詳しく知ることが出来るようにしていきたいと思います。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご本人やご家族から、これまでの生活の様子をうかがうようにしています。その情報を職員は入居前に確認し、入居後は日常生活や会話の中から、今までの生活を把握できるように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの観察を行うことによって、心身の状態や能力を把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者様がより良く暮らせるよう、カンファレンスを通して意見交換を行い、話し合ったことを元に、ご家族と入居者様自身から意見を頂き、介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っています。毎月のケアカンファレンスやご本人の状態や意向・ご家族の意向、医療関係者等との連携により、必要に応じて見直しや変更を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「経過記録」や「あかぎ日誌」「情報交換シート」に日々の観察事項や特変を記入することにより情報の共有を図っています。その記録を基に介護を行い、介護計画の見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方々による慰問の受入れや、近隣中学校の職場体験の受入れを行っています。運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員の方や地域の方から情報を頂くなど、協力しながら入居者様の支援に活かしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用を希望される方がいないため、具体的な動きは生じていません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、必要性が生じていない為、具体的な動きはありませんが、地域包括支援センターの職員の方には、運営推進会議に出席していただいています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診が継続できるように、必要に応じて受診先への送迎と同行を行います。かかりつけ医や往診医や訪問看護師との連携により、適切な医療が受けられるような援助を行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様の過ごしてきた生活を大切に、言葉かけには注意を払っています。個人情報の保護に関する研修は、全スタッフを対象に行っていますし、入職の際にはマニュアル等で説明を行っています。また、業務の中で随時職員への指導を行っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、声かけの仕方を変えたり、わかる言葉で話しかけるようにし、意思を表出できるように働きかけるようにしています。また、表現しにくい入居者様には、スキニップ等で感情を表現する機会を作っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活日課はありますが、職員の業務を優先するのではなく、その人のペース・訴えに対応するように努めています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の整容の時に、髪を梳かしたり髭剃りをしています。週1回の理美容の希望を聞いて身綺麗でいられるような援助を行っています。訴えの困難な入居者様については、職員が支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を容器に入れることや、食後の食器洗いなどを職員と一緒にしています。畑に行き入居者様自身が野菜を取って、それを食事に提供するなど、食事が楽しめるような支援を行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのお酒、飲み物、タバコ等、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう提供しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のチェックと記録を行い、排泄パターンを把握し、その人に合った時間に、トイレ誘導やおむつ交換を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決まっていますが、本人の希望時、身体状況に応じて入浴を実施しています。歌の好きな方は、一緒に歌を唄うなどして、気持ちよく入浴していただけるよう支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて、日中休息の時間がとれるように援助しています。夜間の睡眠が十分とれるよう、生活リズムを整えられるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや気分転換の方法を探し出し、歌や趣味のことや散歩を行うなど、その人に合った支援を行えるように努めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	このユニットでは、お金を所持している方はいませんが、近隣の商店でのお買い物の際には、自分で品物を選ぶということを行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望された場合、ご家族に相談し、一緒に外出できるように支援しています。ご家族との外出が難しい場合には、散歩に出かけたり、他ユニットに出かけて気分転換が図れるようにしています。	○	さらに希望に添った外出が出来るよう、努めていきたいと思っています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食会や外出行事を定期的に行い、外出の機会を設けています。その際、入居者様の希望を聞き、取り入れるようにしています。ご家族へはお便りで参加の呼びかけを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方がいますので、環境を整えたり、手紙を出す援助を行っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が見えたときには、お茶と椅子を用意し、ゆっくりくつろげる雰囲気作りを心掛けています。また、他の人の目届かない場所に談話コーナーが設けてあり、気がねなく過ごせるスペースを確保しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念に掲げられているとおり、身体拘束は一切行っていません。職員は研修にて身体拘束について学び、実践されています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけていません。玄関に関しては安全性を考慮して鍵をかけています。そのことによる弊害は理解しており、散歩やドライブに出かけるなど閉塞性を感じることがないような支援を行っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪問する際には、必ずチャイムを押し、プライバシーに配慮した上で、安否確認を行っています。定時の巡視時に安否確認を行うとともに、危険性の高い入居者様に対しては、定時以外の巡視時間を設け、所在や安否の確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	タバコを吸われる方がいますので、ライターは職員がお預かりしていますが、タバコを希望される際には、職員が付き添い対応し、不便を感じることがないような支援をしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の事項に関する研修を受ける機会を設けています。一人ひとりに合わせ、定時以外の巡視による安否確認や食事形態の変更、誤薬の予防対策等を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者様の急変や事故への発生に備え、救急救命の研修を受け応急手当や初期対応について学んでいます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの下、防災訓練を実施し、避難方法を学んでいます。近隣の商店や住民の方には、日常会話の中で、そのような場合の対応について折に触れて話すようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態や状況に合わせて考えられるリスクについては面会や電話連絡の際に随時説明し、ご理解をいただけるよう話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定と、日々の観察により状態の変化を見逃さないように努めています。変化が見られた場合には、報告と観察を行い、訪問看護師の助言をいただいたり、受診へとつなげます。また変化があった時には申し送りで情報の共有を図り、速やかな対応が出来るように努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主な内服薬については個人ファイルの中に内服薬の情報を入れてあり理解しています。薬の変更があった場合には経過記録に記入し、共有を図り状態の観察を行います。内服に際しては、チェック体制を整えており安全に援助できるようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便サイクルの観察を行っています。水分量や食事摂取量、食事内容が排便に及ぼす影響を理解しており、必要分摂取できるよう援助しています。必要に応じて腹部マッサージや、トイレで座位をとり排便が出来るような援助に努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔衛生の援助を行い、夜間は洗浄液につけています。自分で行える方には出来る部分を行っていただき、不足の部分の援助を行っています。ブラシの使用が難しい方には、綿棒を使用し、口腔内の清潔を保てる様に援助しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じて食事形態を変えて提供しています。飲み込みの悪い方には、キザミ食やとろみ・ゼリーにして提供したり、必要に応じ医師に相談し、経口栄養剤を提供しています。水分・食事量のチェックと記録を行い、必要量が摂取できるような援助を行っています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修を受けています。マニュアルが作成されており、いつでも閲覧できる場所に設置してあります。出勤時の手洗い・うがい・消毒は毎日実行、インフルエンザの予防接種も実施しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存方法は決められたシステムによって管理されています。賞味期限も定期的に確認し、必要に応じ処分しています。食材を扱う際には、調理器具と手指の消毒を行い、生物は火を通すなど、安全な食材の使用と管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は植樹し、玄関には植木や季節の花を飾るなど、ハードな建物のイメージを緩和できるよう努めています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは窓が広くとっており、明るく開放的で季節の移り変わりを感じとることが出来ます。また、季節に合った飾り付けを行い、BGMを流し、共有スペースが居心地良い場所となるように工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ・テレビが置かれ、利用者の思うようにソファで休まれたり、テレビを観賞されたりしています。談話コーナーではひとりで日向ぼっこをしたり、ご家族と過ごされたりする場所として活用されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前から使用していたタンスや家具、人形などを置いたり、好みの飾り付けをして、居心地良い空間を作れるようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間やタイミングを決めて換気を行っています。室温は外気温との差を最小限に抑え、入居者の好みや室温の状況により、エアコンをこまめに作動させるようにしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣室・浴室には手すりを備え付け、一人ひとりの機能を活かして自立した生活を送ることが出来るように工夫されています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせ、自分の居室であることが判るような目印を付けたり、写真をドアに貼ったりしてしています。夜間でもトイレがわかるよう、トイレ前の電気をつけておくなど、判断し易い環境の設定をおこなっています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外には農園があり、季節の花を植えたり、野菜を作って一緒に収穫し食事に提供するなど、楽しく活動できるようにしています。ベランダではお茶会を行ったりできるスペースを確保し、活用しています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の方との交流を深めることにより、地域に根差したホームを目指しています。
 その人らしい生活をしていただき、楽しく日常を送っていただけることを目標に援助を行っています。
 入居者様が何を求めているのかを第一に考え、利用者の声に耳を傾け、意志を尊重しながら援助を行っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあかぎ
(ユニット名)	3丁目
所在地 (県・市町村名)	群馬県渋川市赤城町勝保沢732-1
記入者名 (管理者)	上条 みつ江
記入日	平成 21年 9月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として、地域の中で、入居者様が希望に添ってその人らしく尊厳を持って生活を送ることが出来るよう支援していくことを理念として掲げています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の目の届き易い所に理念を掲示し、その理念を職員が共有し、実践につなげています。その人らしく尊厳を持って生活できるよう、入居者様の立場に立って考えられるよう、折に触れて話しています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居契約の際には、必ず口頭で説明し、ご理解をいただけるように努めています。また、運営推進会議や行事など、地域の方や家族が集う場所で、折を見て話すようにしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店には入居者と一緒にお買い物に出かけ話をしたりしています。外食会では近隣の飲食店などを利用するなど、地域の人との交流を図れるよう努めています。また、夏祭りの回覧物を配布するなど、施設に気軽にきていただけるよう呼びかけを行っています。	○ 今後もさらに地域の方に、施設のことを知っていただき、理解を深めていただけるように努めていきたいと思っています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会で行っている新聞の回収などに協力しています。また、地域で行う祭りや行事などの日程の情報を集め、参加できるように努めています。地域の方からの声掛けにより、芋ほりなどの行事に参加もしています。	○ 今後もさらに、地域との交流を図れるように努めていきたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や地元の方からの介護サービスに関する相談など、積極的に受けるようにしています。認知症に関する知識や介護方法、地域の施設のことなどの相談も随時受け、情報提供を行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、全体会議で全職員に周知を図り、今後の介護に当たっての改善を進めていけるようにしています。	○	今回の自己評価に関しては、気づきのきっかけになるよう、ユニットリーダーを中心に職員に協力してもらいながら出来る範囲で記入をしています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果やアンケートの結果などを報告し、意見を頂いています。また、出された意見に対し業務に反映できるようにし、改善した点などの報告を行っています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内の行事に招待したり、役所を訪問した際に情報交換を行い、地域の情報を頂いています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会を設けています。このユニットでは、利用されている方や、利用の希望のある方はいませんが、支援する体制はあります。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加する機会を設けています。職員は研修等を重ねることにより、正しく理解をしています。また、受傷の際には、インシデント・アクシデントレポートの提出を行っており、虐待による受傷ではないことの確認が出来るような体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、文書をもって口頭で説明を行い、疑問点について確認を行いながら進めるようにしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際には、意見をうかがうようにしています。頂いた意見は職員で話し合い改善できるように努めています。年1回無記名でサービスに対するアンケートを行い意見を頂き、対応や改善策等の報告を行っています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あかぎだより」にて、生活の様子や、施設側からのお知らせをしています。また、面会や電話連絡の際に状態の報告を随時行っています。	○ いろいろな都合で面会に来ることが難しい方もおり、身体の状況について知りたいというご希望がありましたので「あかぎだより」に生活の様子その他、身体状況の欄を設け、ご家族にお知らせしています。今後は、ご家族のご意見に対する対応について報告していけるようにしたいと思えます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡の際には、ご意見をうかがうようにしています。頂いた意見は職員に申し送り、今後のホームの対応に反映できるようにしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各担当会議やケアカンファレンス、日常業務の中で、職員の意見を聞く場を設けています。また、意見交換シートを活用してカンファレンスを行い、業務に反映できるようにしています。	○ モニタリングは月1回に改善、今後も同様に行っていきます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝夕の申し送りの際に、情報交換を行い、その日の状況に合わせたケアの実践が出来るように努めています。急な通院や外出に際しても勤務調整を行うなど、柔軟な対応が図れるよう努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を必要最小限に抑えるため、職員の訴えを傾聴し、職場環境の改善に取り組んでいます。職員の他ユニット間の異動については、日常的に他ユニットとの交流を行い、利用者へのダメージが少なくなるように配慮しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの段階に応じた研修の機会を設け、知識・技術の向上が図れるようにしています。業務の中では、職員の能力に応じて、ユニットリーダーや経験の長い職員が、一緒に業務を行う中で技術を身につけることが出来るような体制をとっています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム管理者と連絡を取り合ったり、群馬県地域密着サービス連絡協議会を通じて、他施設への研修や他施設職員を招いたりすることで、交流する機会を作り、サービス向上につなげる取り組みをしています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気兼ねなく過ごせる休憩室や喫煙室を設けています。管理者は職員の訴えに対し、傾聴するように心がけ、その訴えを運営者に繋げ、働きやすい職場を提供できるよう心がけています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績に応じて評価を行うシステムが構築されています。そのことが職員個々の向上心に繋がっています。また、資格取得に向けての支援や、資格取得後の待遇改善など行い、向上心を持って働けるように努めています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	了解を頂いた上で、入居にいたるまでに、利用中の施設や在宅を訪問し、本人自身から思いを伝えてもらえる機会を設けるようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の都合の許す範囲内で、電話や当ホームに来所いただき相談の機会を設けるようにしています。その中で家族の思いをよく聴くことが出来るよう努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、他サービスも含め説明を行い、サービスを選択出来るように努めています。また、当ホームで出来ることと出来ないことの説明を行い、必要としているサービスであるか見極めができるように援助するよう努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には必ず当ホームに来所して見学していただき、雰囲気馴染めるようにしています。入居後は観察を行い、入居者様やご家族と相談しながら、当ホームの生活に馴染んでいただけるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員からさせようとしたり、無理をさせてしまうことのないよう、入居者様の意思ややる気を観察し、お手伝いの言葉かけや励ましを行うよう接しています。一緒に家事を行ったりする中で、喜び・笑い、お互いを支えあっていると感じます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が援助することが入居者様にとって良いと思えることはご協力をお願いしています。同じ思いで援助が出来るよう、ご家族の思いを受け止めることが出来るよう努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と入居者様のこれまで過ごしてきた生活を尊重し、より良い関係が継続できるよう、状態の報告や情報を提供しています。希望があった場合にはご家族に連絡がとれるようにしています。必要だと思われる場合には、面会や外出を勧めるなどの援助を行っています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者と気兼ねなく過ごせるように、環境を整えた上でその場を離れるようにしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握し、なじみの人や気の合う人と席を隣り合わせにしたり、必要に応じて職員が仲介を行うなど、良い関係が築けるように援助しています。ひとりでの時には、声かけを行い、他の人と関わりが持てるように援助しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居される際には、お困りの事がありましたらいつでもご相談いただきたい旨伝えていきます。また、退居後の移動先の様子などの確認を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際には、それまでの生活ぶりや意向を確認しています。また、日常生活の中で、会話などから希望や意向を汲み取るよう努め、困難な場合はご家族と相談し、本人本位に考えられるように努めています。	○	アセスメントの様式の検討をし、入居者様の思いや意向をより詳しく知ることが出来るようにしていきたいと思っております。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご本人やご家族から、これまでの生活の様子をうかがうようにしています。その情報を職員は入居前に確認し、入居後は日常生活や会話の中から、今までの生活を把握できるように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	観察をこまめに行い、経過記録に記入し、心身の状態や能力を把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族から意向の確認を行っています。職員の「意見交換シート」の活用やケアカンファレンス、医療関係者との連携により、話し合いを行い、介護計画に取り組んでいます。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っています。毎月のケアカンファレンスやご本人の状態や意向・ご家族の意向、医療関係者等との連携により、必要に応じて見直しや変更を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「経過記録」や「あかぎ日誌」「情報交換シート」に日々の記録や観察点の記録を行い、情報の共有を図り、介護計画の見直しに活用しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方々による慰問の受入れや、近隣中学校の職場体験の受入れを行っています。運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員の方や地域の方から情報を頂くなど、協力しながら入居者様の支援に活かしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用を希望される方がいないため、具体的な動きは生じていません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、必要性が生じていない為、具体的な動きはありませんが、地域包括支援センターの職員の方には、運営推進会議に出席していただいています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医への受診が継続できるように、必要に応じて受診先への送迎と同行を行います。かかりつけ医や往診医や訪問看護師との連携により、適切な医療が受けられるような援助を行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のチェックと記録を行い、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう援助しています。また、カンファレンスを行い、リハビリパンツを布パンツに変更したり、その人に合ったトイレの声かけが出来るように話し合いを行い、実践しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決まっていますが、身体状況と精神状態により、声かけの仕方を工夫したり、入浴の実施や入浴日の変更を行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況の把握により、休息の時間を設けてゆっくりと休めるように援助しています。室温や寝具等の調節を行い、快適に休むことが出来るように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活や経験・能力を活かして、モップがけ・植木の水やり、縫い物・洗濯たたみ・食器洗いなどお手伝いして頂いています。食器洗いや食器を拭く事は自分の仕事、と認識されている方もおり、数人で楽しそうにお手伝いをしてください。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力を理解し、お金を所持している方については、買い物が出る機会をつくるなどの支援を行っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望された場合、ご家族に相談し、一緒に外出できるように支援しています。ご家族との外出が難しい場合には、散歩に出かけたり、他ユニットに出かけて気分転換が図れるようにしています。	○	さらに希望に添った外出が出来るよう、努めていきたいと思えます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食会や外出行事を定期的に行い、外出の機会を設けています。その際、入居者様の希望を聞き、取り入れるようにしています。ご家族へはお便りで参加の呼びかけを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方がいますので、環境を整えたり、手紙を出す援助を行っています。自ら電話をすることはありませんが、かかって来た電話を取り次いで、お話が出来るように援助しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が見えたときには、お茶と椅子を用意し、ゆっくりくつろげる雰囲気作りを心掛けています。また、他の人の目の届かない場所に談話コーナーが設けてあり、気がねなく過ごせるスペースを確保しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念に掲げられているとおり、身体拘束は一切行っていません。職員は研修にて身体拘束について学び、実践されています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけていません。玄関に関しては安全性を考慮して鍵をかけています。そのことによる弊害は理解しており、散歩やドライブに出かけるなど閉塞性を感じることがないような支援を行っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪問する際には、必ずチャイムを押し、プライバシーに配慮した上で、安否確認を行っています。定時の巡視時に安否確認を行うとともに、危険性の高い入居者様に対しては、定時以外の巡視時間を設け、所在や安否の確認を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分のはさみを使用し、爪を切られる方がいます。職員がお預かりしていますが、希望された時にはひとりで爪を切る事が出来るように見守りを行っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の事項に関する研修を受ける機会を設けています。一人ひとりに合わせ、定時以外の巡視による安否確認や食事形態の変更、誤薬の予防対策等を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者様の急変や事故への発生に備え、救急救命の研修を受け応急手当や初期対応について学んでいます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの下、防災訓練を実施し、避難方法を学んでいます。近隣の商店や住民の方には、日常会話の中で、そのような場合の対応について折に触れて話すようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態や状況に合わせて考えられるリスクについては面会や電話連絡の際に随時説明し、ご理解をいただけるよう話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定と、日々の観察により状態の変化を見逃さないように努めています。変化が見られた場合には、報告と観察を行い、訪問看護師の助言をいただいたり、受診へとつなげます。また変化があった時には申し送りで情報の共有を図り、速やかな対応が出来るように努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主な内服薬については個人ファイルの中に内服薬の情報を入れてあり理解しています。薬の変更があった場合には経過記録に記入し、共有を図り状態の観察を行います。内服に際しては、チェック体制を整えており安全に援助できるようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便サイクルの観察を行っています。水分量や食事摂取量、食事内容が排便に及ぼす影響を理解しており、必要分摂取できるよう援助しています。必要に応じて腹部マッサージや、トイレで座位をとり排便が出来るような援助に努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔衛生の援助を行っています。自分で行える方には声かけにより出来る部分を行っていただき、不足の部分の援助を行っています。希望に応じ、洗浄液につけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に応じて食事形態を変えて提供しています。希望の時や必要に応じてひと口大に切ったり、経口栄養剤に変更して提供しています。水分・食事量のチェックと記録を行い、必要量が摂取できるような援助を行っています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての研修を受けています。マニュアルが作成されており、いつでも閲覧できる場所に設置してあります。出勤時の手洗い・うがい・消毒は毎日実行、インフルエンザの予防接種も毎年実施しています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存方法は決められたシステムによって管理されています。賞味期限も定期的に確認し、必要に応じ処分しています。食材を扱う際には、調理器具と手指の消毒を行い、生物は火を通すなど、安全な食材の使用と管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は植樹し、玄関には植木や季節の花を飾るなど、ハードな建物のイメージを緩和できるよう努めています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは窓が広くとっており、明るく開放的で季節の移り変わりを感じとることが出来ます。また、季節に合った飾り付けを行い、BGMを流し、共有スペースが居心地良い場所となるように工夫しています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員や他の方から目の届きにくい場所に、談話コーナーが設けられており、利用者同士で過ごしていただいたりできるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた家具を使用したり、好みの飾り付けを行い、思い思いの個性あふれる居室づくりが出来るよう支援しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間やタイミングを決めて換気を行っています。室温は外気温との差を最小限に抑え、入居者の好みや室温の状況により、エアコンをこまめに作動させるようにしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣室・浴室には手すりを備え付け、一人ひとりの機能を活かして自立した生活を送ることが出来るように工夫されています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜間でもひとりでトイレに行けるよう、トイレ前の電気をつけておくなど、判断し易い環境の設定をおこなっています。また、家具等好みの位置に置いた物は、むやみに動かすことがないようにし、居室の雰囲気を変えることがないように注意を払っています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外には農園があり、季節の花を植えたり、野菜を作っ一緒に収穫し食事に提供するなど、楽しく活動できるようにしています。ベランダではお茶会を行ったりできるスペースを確保し、活用しています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の方との交流を深めることにより、地域に根差したホームを目指しています。
 その人らしい生活をしていただき、楽しく日常を送っていただけることを目標に援助を行っています。
 入居者様が何を求めているのかを第一に考え、利用者の声に耳を傾け、意志を尊重しながら援助を行っています。